

令和7年度

学校自己評価システムシート

(さいたま市立 西原 中学校)

学校番号

256

学校教育目標

心の豊かな生徒 (Global・徳) 自ら学ぶ生徒 (Growth・知) 強くたくましい生徒 (Grit・体)

目指す学校像

地域の学校として学校・家庭・地域が連携・協働し、社会に貢献できる人材を育む学校

重点目標

1

一人ひとりの生徒を主体とする学びの自立と個別最適化の実現

2

誰一人取り残されない教育支援・相談体制の充実

3

学校運営協議会を核とした地域、保護者の願いが叶う教育の実現

4

安心・安全な教育環境の整備

5

最新の教育トレンドへのアンテナを高くし、自己の指導技術更新を心掛ける教職員の育成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、  
方策の評価指標」を設定。

達成度

達成

A

ほぼ達成

(8割以上)

概ね達成

B

(6割以上)

変化の兆し

C

(4割以上)

不十分

D

(4割未満)

| 学 校 自 己 評 価 |                                                                                                                                                                                                                            |                                                      |                                                                                                           |                                                                                                         |           |     |             | 学校運営協議会による評価        |  |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-----|-------------|---------------------|--|
| 年 度 目 標     |                                                                                                                                                                                                                            |                                                      |                                                                                                           | 年 度 評 価                                                                                                 |           |     |             | 実施日令和 年 月 日         |  |
| 番号          | 現状と課題                                                                                                                                                                                                                      | 評価項目                                                 | 具体的方策                                                                                                     | 方策の評価指標                                                                                                 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |  |
| 1           | <div>〈現状〉<br/>○全国及び市独自の学習状況調査では、これまで合計点を市平均と比較すると、-5~-14点であったが、昨年度は市平均との差+6~-2点となり、授業ごとに行うY（やったこと）W（わかったこと）T（次になること）による授業の振り返りの継続の成果が見られる。<br/>〈課題〉<br/>○読解力に課題のある生徒が少なくない。<br/>○授業が「わかる」「将来役立つ」と感じている生徒の割合が低い。</div>      | ・デジタルドリルや学習ツールを活用した基礎学力の向上。                          | ①朝の時間に、新聞ワークシート及びスタディサプリに取り組む時間を設定し、基礎学力の向上を図る。<br>②授業におけるYWTによる振り返りの時間を確保することで、自ら学ぶ力を高める                 | ①1・2年生は市学習状況調査4教科合計において、昨年度同集団での市平均との差を上回る。3年生は、全国・学力学習状況調査、教科に関する調査において市平均を上回る。<br>(R6:1年+6.2、2年-0.94) |           |     |             |                     |  |
|             |                                                                                                                                                                                                                            | ・生徒の主体的な学びを実現させるための手立て及び教職員の指導力向上。                   | ①「『個別最適な学び』と『協働的な学び』」の一体的な充実」を校内研究テーマとし、教職員の指導力向上を図る。<br>②教職員相互の授業参観を活発化させることで、指導力向上を図る。                  | ②学校自己評価、生徒対象「授業に進んで意欲的に取り組んでいる」のA回答の向上。<br>(R6:1年39.5、2年32.2→R6以上)                                      |           |     |             |                     |  |
| 2           | <div>〈現状〉<br/>○全国学力・学習状況調査質問紙「自分にはよいところがあると思いますか」「学校に行くのは楽しいと思う」「友人関係に満足している」と回答した生徒の割合は全国平均を大きく上回っている。<br/>〈課題〉<br/>○教育相談的配慮を要する生徒が増加する中であっても、生徒一人ひとりの支援の充実を図る必要がある。<br/>○2年目となるSolaの一むは、効率的な運営を目指し、改善を図り続ける必要がある。</div>  | ・生徒一人ひとりへの細やかな生徒指導・教育相談に向けた校内体制の充実。                  | ①週1回の生徒指導部会、教育相談部会において、生徒の最新情報を随時共有し、迅速且つ組織的な対応を行う。                                                       | ①学校自己評価、保護者対象「学校は、生徒の悩み事に対して、相談できる体制を整えている」の肯定的な回答を昨年度以上とする。(R6:80.8)                                   |           |     |             |                     |  |
|             |                                                                                                                                                                                                                            |                                                      | ①トラブル発生時、心と生活のアンケート実施後、長期欠席生徒への対応等、報道相の徹底と生徒、保護者への丁寧な働き掛けを継続して実施する。<br>②Solaの一むに関わる業務分散を進め、持続可能な運用を行う。    | ①学校自己評価、生徒対象「悩みや困ったことを相談したとき、先生は相談に応じてくれる」の肯定的な割合を昨年度以上とする。<br>(R6:1年70.9、2年58.9)                       |           |     |             |                     |  |
| 3           | <div>〈現状〉<br/>○学校運営協議会の熟議が充実してきており、学校を発信源とした地域への働きかけが進みつつある。<br/>〈課題〉<br/>○学校運営協議会を核とし、地域、保護者の皆さんの思いや願いを受け止め、学校教育活動との連携強化が求められる。<br/>○PTA活動の大幅な活動縮減が図られ、保護者の負担は軽減しているが、学校の負担増、学校、保護者の連携弱化が進んではならない。</div>                  | ・学校運営協議会を発信源とした地域に根ざした信頼される学校の実現。<br>・地域と学校との関わりの充実。 | ①西原小学校と合同で実施している学校運営協議会の実施方法を一部各校開催とすることで熟議の時間を充実させ、地域、保護者の願いの実現を図る。<br>②学校運営協議会を主体とした発信、取組を拡充する。         | ①学校自己評価、保護者対象「学校は保護者や地域の人々との連携を図って教育活動を進めている。」の肯定的な割合を昨年度以上とする。(R6:80.2%)                               |           |     |             |                     |  |
|             |                                                                                                                                                                                                                            |                                                      | ①ボランティア活動の充実を図るため、学校運営協議会、地域の会合等を通して呼びかけを行い、生徒の活躍の場を広げる。                                                  | ①学校自己評価、保護者対象「学校は、保護者や地域の協力、願いを受け止めて、学校の教育活動を進めている。」の肯定的な割合を昨年度以上とする。<br>(R6:84.6%)                     |           |     |             |                     |  |
| 4           | <div>〈現状〉<br/>○PTA、部活動が全入ではない時代となり、受益者負担の原則に反するPTA会費、生徒会費からの支出の見直しが図られてきた。<br/>○昨年度学校施設の瑕疵による事故は発生していない。<br/>〈課題〉<br/>○新設柔道場の工事が継続していることから、引き続き業者との連携を図り、安全を確保する必要がある。<br/>○毎月の安全点検を確実に実施するとともに、危険箇所への対応を迅速に行う必要がある。</div> | ・適切な予算執行と教育環境の充実。                                    | ①生徒会費、PTA会費、部活動費の予算案を見直し、受益者負担の原則のもと執行することで教育環境を充実する。<br>②学校長マネジメント分予算について、教職員の願いに応じた優先順位の設定、効果的な執行を実現する。 | ①学校自己評価、保護者対象「学校は、安全・安心に配慮した教育活動を進めている」のA回答の割合を前年度以上とする。(R6:31.9)                                       |           |     |             |                     |  |
|             |                                                                                                                                                                                                                            | ・安心・安全で美しく整えられた教育環境づくり。                              | ①現在行われている柔道場新設工事等の安全管理を徹底する。<br>②毎月の安全点検を徹底するとともに、覚知した修繕箇所については、優先順位を明確にした上で、迅速に対応する。                     | ①学校自己評価、生徒対象「安全に安心して活動できるよう、先生方は気を付けてくれている」のA回答を昨年度以上とする。(R6:68.4)                                      |           |     |             |                     |  |
| 5           | <div>〈現状〉<br/>○一人一台端末が整備され4年目を迎え、ICTの活用については、日常化されつつある。<br/>○働き方改革については、昨年度1か月の教職員一人当たりの時間外在校時間は40時間を下回る成果が得られている。<br/>〈課題〉<br/>○教職員が、生徒にICTを効果的に活用する授業の充実を図る必要がある。<br/>○より一層の業務分散を図る必要がある。</div>                          | ・自己の指導技術更新を心掛け、学び続ける教師の育成。<br>・信頼される教職員の育成と働き方改革の推進。 | ①学校課題研究を通し、教職員が個々に目標をもち、授業力向上を目指すようにする。<br>②校長だよりを通して最新の教育ニュース等をまとめ発信する。                                  | ①学校自己評価・教職員対象「研修課題に主体的に取り組み、研究に取り組めているか」のAの割合の向上。<br>(R6:35%→40%)                                       |           |     |             |                     |  |
|             |                                                                                                                                                                                                                            |                                                      | ①「学びの指標」の結果をもとに、自己のキャリア段階と比較し、目標をもって指導に当たれるよう指導する。<br>②適切な業務分散とICT等の活用により、業務の効率化を図る。                      | ①さいたま市教員等の勤務に関する意識「負担や多忙感を感じている。」の肯定的な回答の割合の減少。<br>(R6:86.7%→85%)                                       |           |     |             |                     |  |

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

学校地域とともに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組